

第25回 奈良県営競輪あり方検討委員会 議事録

1. 開催日時：令和6年12月24日（火） 11：00～12：05

2. 開催場所：奈良県営競輪場 飛天交流館2階

3. 出席者

【出席委員（五十音順 敬称略）】

松岡委員長、石川委員、石黒委員、上垣委員、西川委員

【事務局】産業部 森本部長 奈良次長

経営支援課 吉村課長 間林課長補佐 川村係長

競輪場 山崎場長 池田次長

ほか4名

4. 公開・非公開の別

公開

5. 議題

I 今後の収支見通し等について

II その他

<吉村課長>

それでは定刻となりましたので、ただ今より第25回奈良県営競輪あり方検討委員会を開催させていただきます。

委員の皆様方には、大変お忙しいところ、ご参集いただきましてありがとうございます。

私は事務局を担当しております、奈良県経営支援課長の吉村でございます。

本委員会は、平成24年9月に第1回目を開催した後、前回今年7月まで、24回の委員会を開催し、各委員の皆様から貴重なご意見を賜って参りました。

本日は、競輪事業の今後の方向性についてご審議いただくため、お集まりいただきました。

委員5名のうち5名のご出席をいただいておりますので、奈良県営競輪あり方検討委員会規則第6条第2項で定める、会議を開くための定足数である委員の半数以上の出席を充たしておりますので、本日の会議が有効に成立することをご報告申し上げます。

それでは、僭越ながら事務局より、本日出席の委員の皆様を紹介させていただきます。
本委員会の委員長でございます早稲田大学スポーツ科学学術院 院長 松岡宏高様。

<松岡委員長>

おはようございます。よろしくお願いいたします。

<吉村課長>

i i f u l 株式会社 代表取締役 中小企業診断士 石川聖子様。

<石川 委員>

石川です。よろしくお願いいたします。

<吉村課長>

おおみね法律事務所 弁護士 石黒良彦様。

<石黒委員>

石黒です。どうかよろしくお願いいたします。

<吉村課長>

奈良県サイクリング協会 副会長 上垣憲一様。

<上垣委員>

上垣です。よろしくお願いいたします。

<吉村課長>

一般財団法人南都経済研究所 理事長 西川恵造様。

<西川委員>

西川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

<吉村課長>

続きまして、出席しております奈良県職員を紹介いたします。

奈良県産業部長の森本でございます。

<森本部長>

森本でございます。よろしくお願いいたします。

<吉村課長>

産業部次長の奈良でございます。

<奈良次長>

奈良でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

競輪場長の山崎でございます。

<山崎場長>

山崎でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

競輪場次長の池田でございます。

<池田次長>

池田でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

経営支援課課長補佐の間林でございます。

<間林課長補佐>

間林でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

経営支援課係長の川村でございます。

<川村係長>

川村でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

それでは、産業部長の森本より、ご挨拶を申し上げます。

<森本部長>

改めまして皆様おはようございます。

本日は第25回となりました奈良県営競輪あり方検討委員会にご出席賜りまして誠に

りがとうございます。年の瀬も押し迫りまして本日クリスマスイブという大変な時期にお越しいただきまして本当に感謝しております。

前回7月に開催しました第24回あり方検討委員会においては、令和5年度の決算状況及び令和6年度の取組をご説明させていただき、競輪事業として取り組むべき課題や、今後の議論の方針についてご意見を賜ったところでございます。

毎年進捗を見ていただきながら、5年ごとに競輪事業を続けていくかどうかという点でご意見をいただいております。現在は令和4年度から令和8年度までの5年間は継続していけば良いというご意見をいただいていたところですが、コロナ禍が明けた後も、依然として経営は順調で、今後の方向性について、結論を出す時期に来ているのではないかとご意見をいただいたところでございます。

その際に、今後の方向性を議論するにあたって、中長期的な収支シミュレーションを出す必要があるのではないかとご意見を賜ったところございまして、前回委員会後も、依然として経営は順調に推移しております。本日はそれを踏まえまして、収支シミュレーションを出させていただいておりますので、それをご覧いただきながら、競輪事業の今後の方向性につきまして、様々な見地から皆様のご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

<吉村課長>

議事に入ります前に、会議の公開についてですが、傍聴を希望される方がおられますのでご了承願います。

なお、傍聴される方のお手元に、傍聴要領を配布しております。記載された注意事項にご留意いただき、議事の進行を妨げないように、お願いたします。

それでは、松岡委員長、議事進行よろしくお願いたします。

<松岡委員長>

皆様、改めまして本日はお集まりいただきありがとうございます。

それでは本日の次第に沿いまして進めてまいりたいと思っております。各委員のご協力よろしくお願いたします。

今森本部長からもお話がありました令和9年度以降の今後の方針について、本日は原案をご準備いただいております、それがメインの議論となるかと思っております。

その上で、まず、議題I「今後の収支見通し等について」、1ページの「(1) 前回までのおさらい」から6ページの「(3) ③中長期的な収支シミュレーション」まで、事務局よりご説明を願いますでしょうか。よろしくお願いたします。

<間林補佐>

経営支援課の間林です。

資料の1ページから5ページまでをご説明いたします。着座にてご説明させていただきます。

1ページをご覧ください。前回までの議事内容についてのおさらいです。

令和4年度以降の競輪事業の方向性といたしまして、令和3年7月13日に開催させていただいた第21回で、当委員会から、令和4年度以降の競輪事業についての方向性をいただきました。読み上げます。

「平成25年度以降、黒字で推移しており、現在の経営状況及び施設整備を含めた今後の収支見込みでは、令和4年度以降も継続可能な状況である。一方、新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の開催状況及び収支変動等を注視する必要がある。このため、令和4年度から令和8年度までの5年間は引き続き競輪事業を実施するとともに、経営安定化を図る期間とする。」というものでした。

この方向性を受け、第22回から前回第24回の委員会では、経営状況や取組内容等についてご議論いただいたところです。

今年7月12日に開催した前回委員会では、事務局から主に次の報告をさせていただきましたので、読み上げます。

「令和5年度の決算状況は、一般会計に4億40百万円を繰り出したうえで、1億50百万円の黒字を確保している。令和5年度の車券発売金合計額及び1日平均車券発売金額は、引き続き、インターネット投票による車券発売が好調であり、令和4年度とほぼ同水準の売上で堅調に推移している。令和5年度のGⅢ「春日賞争覇戦」の車券発売金額は、令和4年度より約9億円増の65.6億円であった。令和5年度において、引き続き、全ての公営競技（競輪・オートレース・ボートレース・競馬）で売上が増加している。」

前回委員会において、委員からの主なご意見として、次のとおり頂戴しております。

「車券発売は、コロナ禍が明けても、依然好調な状況であり、黒字回復した平成25年から10年間黒字を維持している。このような状況を鑑みると、競輪事業の今後の方向性についての結論を出す時期ではないか。次回委員会で、今後の方向性を議論するため、中長期的な収支シミュレーションを提示いただきたい。」

これらのご意見を踏まえ、今回の委員会では、今後の方向性についてご審議いただければと思います。

<池田次長>

競輪場の池田です。

続きまして、「令和6年度の奈良競輪開催状況について」ご説明いたします。

2ページをご覧ください。「①令和6年度の開催実績」について、ここでは、前回委員会以降に開催された8レースの車券発売状況の結果をご報告いたします。

FⅠナイターについては、11月及び12月に合わせて3レースを開催いたしました。次に、FⅡモーニングについては、7月及び10月に2レースを開催いたしました。最後に、

FⅡミッドナイトについては、7月から10月にかけて合わせて3レースを開催いたしました。各開催における車券発売金等については、資料に記載のとおりです。

3ページをご覧ください。「②令和6年度の開催予定」についてです。ここでは、今後のレースの開催予定をご報告いたします。

まず、上の表は、令和5年度と令和6年度の開催日数をお示ししております。令和6年度は、合計行に記載のとおり、全てのグレードを合わせて65日間の開催を計画しております。そのうち、現在まで46日間の計画どおり滞りなく実施いたしました。今年度3月末までに残り6開催19日間を実施する予定です。

下の表は、「開催日程表」です。GⅢの春日賞争覇戦を2月に予定しております。また、FⅡレースについて、モーニング開催を1月と3月に、ミッドナイト開催を今週27日からの12月と、1月、3月に開催を予定しております。

続きまして、4～6ページにて「(3) 収支見通し等について」ご説明いたします。

4ページをご覧ください。「①令和6年度(4～12月前半)までの売上推移」についてです。

まず、12月前半に開催した直近までの開催実績を踏まえた今年度の車券発売見込額の試算を行い、令和元年度以降各年度の1日平均車券発売金額との比較をしております。結果としましては、前回委員会以降も、引き続きインターネット投票による車券発売が好調であり、1日平均車券発売金額は堅調に推移している状況です。

ページ中段の表は、1日平均の車券発売金額を、レースのグレード別及び発売方法別に算出したものです。なお、令和6年度の額は、今後の見込みを含めた試算額となっております。

表の一番上、GⅢの右から2列目をご覧ください。令和6年度のGⅢの1日平均発売金額合計は12億49百万円となりました。これは、今年6月に開催した大阪・関西万博協賛競輪が4日間で約34億円の売上であったことが影響しており、昨年度4日間で65億円を売上げたGⅢ記念競輪「春日賞争覇戦」と比較し低い数値となっております。なお、大阪・関西万博協賛競輪はGⅢレースではありますが、毎年開催される記念開催とは別に追加で開催されるものであり、記念開催と比較して全国的に売上額は低くなる傾向があります。

また、FⅠナイターの合計は5億10百万円、FⅡモーニングの合計は2億54百万円、FⅡミッドナイトの合計は3億86百万円、全レース平均の1日平均発売金額は4億87百万円となりました。なお、右端の列は、発売金額の前年度比になります。

全てのグレードの合計を図示したのが、左下のグラフになります。新型コロナウイルスの影響で無観客開催という特殊要因のあった令和元年度を除くと、1日平均発売金額は増加傾向にあり、特に、インターネット投票の1日平均金額が増加しております。

右下のグラフは、車券発売金の構成比を示したものです。インターネット投票は、全体の85%を超えるまでに増加している状況です。

ここで説明者を交代させていただきます。

<間林課長補佐>

それでは引き続き、間林からご説明させていただきます。

5ページをご覧ください。「②奈良競輪を取り巻く環境」についてです。まず、競輪界の動向といたしまして、全国競輪場の状況です。

左上グラフをご覧ください。全国の車券売上額の推移は近年増加傾向にあり、令和5年度売上額は、令和4年度比9%増の約1兆2000億円となり、令和4年度と比べ増加の勢いはやや落ちたものの、引き続き堅調に推移しております。

また、右上グラフのとおり、車券発売の売上拡大に伴いまして、令和2年度以降、全国の競輪施行者の営業活動収支も増加しております。売上低迷期において施設改修を十分に進められてこなかったことから、競輪場を大規模改修する動きが増加しております。例えば、今年度改修を終えた防府競輪場や熊本競輪場のほか、広島競輪場、京都向日町競輪場が現在改修工事を行っております。

次に、奈良県におけるトピックを紹介させていただきます。国民スポーツ大会等の開催です。令和13年に奈良県で第85回国民スポーツ大会及び第30回全国障害者スポーツ大会が開催される予定です。それに伴い、令和12年にはリハーサル大会も開催される予定です。奈良県営競輪場は、国民スポーツ大会の実施競技の1つである自転車競技（トラック）の会場基準を満たす県内で唯一の自転車競技場で、会場候補に選定されているところです。

6ページをご覧ください。「③中長期的な収支シミュレーション」についてです。冒頭の1ページの「前回までのおさらい」でご説明させていただきましたとおり、前回委員会にてご意見がありました中長期的な収支シミュレーションを今回作成させていただきました。

中長期的な県営競輪場の運営に際しましては、人口推移や物価変動等、他律的要素による収支状況の変動が見込まれております。国立社会保障・人口問題研究所が公表する将来推計人口による人口減少率と、国及び日本銀行が公表するインフレ率等を基に、将来の変動幅を考慮した3つのシナリオを基に、シミュレーションを行いました。ページ中段のとおり、中間シナリオ、楽観シナリオ、悲観シナリオの3つで設定しております。

収入及び支出のシミュレーションにあたり、収入については、将来的な人口変動の影響を想定し、令和5年度実績値を基準に、人口減少率を乗じて試算を行いました。次に、支出のうち、車券売上金払戻金やJKAへの交付金等の売上連動経費については、収入の車券発売金と連動するよう試算を行いました。また、支出のうち、委託費や人件費等のその他費用については、将来的な物価上昇の影響を想定し、令和5年度実績を基準に、物価・人件費上昇率を乗じて試算を行いました。

楽観シナリオでは、人口減少率及び物価人件費上昇率が最も低い数値を、悲観シナリオでは、人口減少率及び物価人件費上昇率が最も高い数値を、中間シナリオでは、それぞれ中間の数値を採用し、シナリオ別に黒字を維持できる期間を算出しました。

算出結果としましては、中間シナリオを採用した場合をお示しさせていただいております。令和40年度までは黒字を維持できる見込みとなっております。収支累計は、令和40

年度までの合計が約300億円となる見込みです。

また、悲観シナリオの場合は令和32年度まで、楽観シナリオの場合は令和52年度まで黒字を維持できる見込みです。奈良県営競輪施設整備基金の残高は、令和5年度末時点で約46億円であるとともに、仮に悲観シナリオで推移した場合でも、来年度から26年間は黒字を維持できる見込みです。

以上で、6ページまでのご説明を終わります。ご審議よろしく願いいたします。

<松岡委員長>

非常に丁寧な資料をご準備いただきましてありがとうございました。30年以上先のシミュレーションはなかなか難しいとは思いますが、委員の皆様何かご意見、ご質問等がありますでしょうか。

<上垣委員>

収支シミュレーションで、選手の育成は想定されておられますか。

<山崎場長>

収支シミュレーションについて、選手の育成や年齢構成等のデータは特に入れてはおりません。あくまで競輪場の収支の計算をさせていただいております。

<上垣委員>

競輪における選手数が、少し減ってきているというお話を聞いております。将来的に、さらに低下していくのではないかという不安がありますので、そこも踏まえると今後もっと精査ができると思いますので、よろしく願いいたします。

<松岡委員長>

ご質問の意図としては、自転車に乗る人がいなくなると、競輪事業そのものが成り立たないということだと思います。これは奈良県営競輪場だけの問題ではなくて、競輪界全体の問題かと思えます。そこまでの予測はなかなか難しいかと思えますが、そのようなご意見があったということで、メモに書き留めておいてください。

他にはいかがでしょうか。

<石川委員>

収支見通し等について、確認をさせていただきたいのですが、30年という収支シミュレーションは、最近経営の場面でも立てることが少なくなっております。中長期というよりは、超長期だと思いながら拝見しておりまして、シミュレーションが必要な中で立てられたというところは理解しております。

その前提の中で確認したいことは、変動要因が人口推移と物価変動とされており、一般的なマクロ的な要因として採用されていることは分かりますが、今までこの変動要因が競輪事業において影響が大きい等、この変動要因で条件設定された根拠や背景を確認させていただければと思います。

<間林課長補佐>

シミュレーションの前提といたしまして、人口変動率と物価変動率をベースに試算させていただいております。

長期的なシナリオを検討するにあたっては、まずはマクロ的な視点から考えたいということで、今回試算のベースにさせていただいております。

足元で言いますと、コロナ禍以降、競輪事業の売上が随分と戻ってきているという大きな流れもありますが、それをこのシナリオに変動要素として入れてトレンドを読むことは難しいので、ベーシックなマクロをベースに試算をさせていただいております。

<吉村課長>

加えまして、コロナ禍前後で、インターネットによる車券発売額が全国的に増えてきており、客層が変わってきていることを個別に反映させるのは難しかったところがあります。あくまでも人口減少率等にて試算をさせていただきました。

<石川委員>

今回の収支シミュレーションは、今後再度精査されていくのでしょうか。基本的にはこの数字を今後継続的に使っていくのでしょうか。

<吉村課長>

石川委員がおっしゃった通り、非常に超長期のシミュレーションですので、今後、経営について様々な視点から見ていく必要がありますので、当然短期的な部分でのシミュレーション等は考えられると思います。

<石川委員>

ぜひそのあたりの精査は必要かと思います。当然、今回、細かい収支を見極めていくタイミングではまだないというのは重々理解しておりますが、背景が非常に見えにくい中で、判断せざるを得ないという不安要素があるので、ぜひそのあたりの精査を今後お願いしたいと思います。

また、4ページで、車券発売金額の構成比が大きく変わってきているということで、特に窓口投票よりもインターネット投票が非常に増えてきている傾向が非常に顕著に出ているというのは、従来の委員会でもお聞かせいただいておりますが、中長期な収支シミュレーシ

ョンの中で、そういうところは利益率等で加味されているのでしょうか。

<間林課長補佐>

結論から申し上げますと、そこは収支シミュレーションに反映しておりません。ただ、足元のトレンドといたしまして、この車券発売が増えてくるとというのは、経費的にはプラスに働くと考えております。来場いただく方が良いのか悪いのかという話は置いておくと、インターネットの売上が増えてくると、例えば警備員数の削減等の運営コストで減る面があると考えますので、収支としてはこの数字を反映しておりません。そういったところから、プラス要因をこの数字は入れていないというところ です。

あと補足になりますけれども、トップラインの売上が人口に合わせて減るという試算をさせていただいておりますが、こちらにはインフレを考慮しておりませんので、シミュレーションとしては保守的なシナリオになっているかと思います。

<石川委員>

この数字をどこまでどう見て良いのかということに、少し戸惑うところですので、またタ イミングによって精査していただければということ を付け加えておきます。

<間林課長補佐>

ありがとうございます。

<松岡委員長>

来場者が減るのが良いのか悪いのかということ がありますが、例えばミッドナイト競輪 において、来場者はいないが、十分に車券が売れてコストが少 ないとなると、インターネットで買う人が増える傾向であれば、ミッドナイト競輪の開催を増やすと、コストの関係でよ り良くなるというところで理解しました。

<山崎場長>

松岡委員長のおっしゃる通り、ミッドナイト競輪は無観客で開催しております。そのとき は、インターネットでの発売のみで来場者はおりませんので、施設の負担が少なくなるという 状況です。

また、現在の傾向としまして、2月に開催されるGⅢの大きなレースでは、来場者は非常 に多く、窓口投票の割合が40%程度あります。そういった影響もありまして、窓口投票と いうのも必要な部分は残っておりますが、車券売上全体としては、85%以上がインターネ ット投票となってきたというところもあります。さらに、来場者の年齢層も上がってき ており、今後はますますインターネット投票の割合が増えてくることが想定されますが、現 在の奈良県営競輪場は来場者1万5000人が収容可能な施設であり、この施設自体が過

大な施設になってきているという現状です。

ご説明の中にもありましたが、他場で改修している施設はコンパクト化を進めていくという流れになっておりますので、そういう状況であることもご認識いただければと思います。

<松岡委員長>

他にはいかがでしょうか。

<西川委員>

私は元銀行員でしたので、どうしてもこのようなシミュレーションでは、悲観的なシナリオの方を見がちになりますし、石川委員からもご意見ありましたように、要素がこれで良いかという点で、不安に思うところもあります。

インターネット投票が増えてきたことは、非常にありがたいことですが、インターネットでは購入された方の属性も掴みにくいですし、飽きられてしまったら終わりというところがあると思います。

また人口が増えれば競輪の投票が増えるというのは、決してそうではないと思いますが、このような要素で見えていかざるを得ないことは理解しております。ただ、要素が人口推移と物価変動ということで、他動的な要因ばかりで組み立てておりますので、おそらく一般の民間企業や事業の場合、自分たちが何をして売上を増やしていくかという計画が同時にあるべきかと思っておりますので、その辺りも含めて、今後のシミュレーションについても、ご検討されるのが良いと考えております。

<間林課長補佐>

ご意見いただきまして、ありがとうございます。

競輪場として、その売上を増やすために、何かをやっていくべきであるということは、西川委員のおっしゃる通りですので、そのあたりの取組も進めながら、収支シミュレーションに反映できるところはしていきたいと考えております。

<松岡委員長>

今後のシミュレーションというのは、色々と問題点もあると思いますが、この後の方向性について議論する上では、現時点の資料のままでよろしいでしょうか。

<石川委員>

はい。

<西川委員>

はい。

<松岡委員長>

今後の話になるかと思いますが、収支シミュレーションは、もう少し他の要因も含めながら、日々変わっていくこともありますので、継続してご検討いただければというご意見があったということをまとめさせていただきたいと思います。

では、次に「(3) 収支見通し等について」の7ページ「④令和9年度以降の競輪事業の方向性(案)」を、事務局よりご説明をお願いいたします。

<間林課長補佐>

7ページについて、ご説明させていただきます。

「④令和9年度以降の競輪事業の方向性(案)」についてです。

中長期的なシミュレーション結果を踏まえ、事前に委員の皆様からのご意見を委員長にとりまとめていただきました(案)について、事務局より読み上げさせていただきます。

「当委員会は、平成24年9月の設置以来、数年ごとに競輪事業の存続期間を含む方向性を示してきた。令和3年7月提言では、令和4年度以降も継続可能な状況である一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を注視する必要があるため、令和4年度から令和8年度までの5年間は引き続き競輪事業を実施するとともに、経営安定化を図る期間とした。コロナ禍収束後も経営状況は堅調に推移しているとともに、近年の取組状況及び今後の収支見込みから長期間にわたって持続可能な状況である。このため、令和9年度以降も中長期的に競輪事業を実施することが妥当である。令和9年度以降の事業継続に向けては、施設が老朽化していることから、競輪事業継続に必要な施設整備を確実に実施することとする。当委員会は、「競輪事業の経営改善策に関する事項」及び「競輪事業の存廃を含めた今後のあり方に関する事項」についての意見を聴取する目的で設置されることから、上記方向性を当委員会における最終結論として示し、役割を果たしたこととされたい。一方で、引き続き競輪事業の経営の安定化を図るとともに、包括外部委託の継続要否を含む経営手法及び経営状況等の検証・検討を実施されたい。」

以上、「令和9年度以降の競輪事業の方向性(案)」です。

また、競輪事業の継続を選択した場合に今後対応が必要となると考える課題について、ご説明させていただきます。

まず、施設・設備等の老朽化です。現存する施設の多くは、昭和40年代に建設されており、耐震性能が不十分であったり、停電・漏水が発生したりする等、施設・競走路・設備の老朽化への対応が必要となっていると考えます。

次に、社会環境の変化です。娯楽の多様化により来場者数が減少しているとともに、インターネット投票等により車券発売金が大幅に増加している一方で、窓口投票が減少してい

ることから、現在の施設は、来場者数に対して過大な規模となっております。

最後に、開催形態の多様化です。ナイター、ミッドナイトの開催が増加する一方で、夜間等の開催にかかる照明機器のリース費用が増加しております。また、ガールズケイリンの開催による女子選手用の設備が不足しており、対応が必要となると考えます。

以上で、7ページまでのご説明を終わります。

引き続き、ご審議よろしくお願ひいたします。

<松岡委員長>

それでは、委員の皆様からご質問、ご意見はありますでしょうか。

継続して検討しないといけない課題はあるものの、令和9年度以降も中長期的に競輪事業を実施するという案です。

私から1点申し上げます。先ほど西川委員や石川委員からも、収支シミュレーションの妥当性についてのご意見があり、いろんな変化が起こる時代において、今後も継続してシミュレーションや検討をしながら、進めていく必要があると思います。

収支シミュレーションの結果が、ネガティブになったから急にストップという話ではなく、その対応をきちんと取れることが必要だと思いますので、課題の項目に、その内容を反映いただければと思います。

例えば、収支見通しの検討を継続的に行うことや、消費動向の予測が非常に困難な情勢であることを踏まえ、収支シミュレーションを定期的に見直していくことを、課題の項目に入れていただくというのはいかがでしょうか。

<吉村課長>

ありがとうございます。

松岡委員長、西川委員や石川委員からもご意見ありました通り、中長期あるいは長期的な視点での資料を今回お示しさせていただいているところです。その点で、他律的要因を採用させていただいており、実際には当然様々な事象が発生してくることと思われまふ。

その都度、この長い視点での収支シミュレーションに縛られることなく、定期的に短期での視点というのを取り入れ、シミュレーションをしながら直近どのような状況になっていくのかを確認することに努めて参りたいと考えております。

<松岡委員長>

ここ数年の回復がシミュレーションで10数年前に予測できていたら、この委員会は立ち上がってないと思います。本当にどうなるかわからないので、ぜひこの課題は継続して確認いただくというような文言を課題の項目に書き入れていただけると良いかと思ひました。

委員の皆様いかがでしょうか。

<西川委員>

少し趣旨の方は外れるのかもしれませんが、今後の競輪事業の方向性（案）に関しては、この通りが良いと思いますし、事業継続の選択をした場合は必ずこの老朽化した設備は更新していく必要があると思います。

ただ現在の競輪としての稼働日数が60日程度で、365日中60日しか稼働しない設備に投資するというのは、銀行員の感覚では全く考えられないような設備投資です。この委員会については、あくまでも競輪事業の方向性を決める委員会ではありますが、競輪場の設備投資を回収するという視点では、もう少し稼働率上げるための複合的な施設や多目的な施設にならないかを併せて検討いただければと思います。

以上です。

<松岡委員長>

私も委員の皆様と同じように、施設は稼働率がとても大事であると考えます。競輪場とは少し違うかもしれませんが、全国でも多くのスタジアムやアリーナが建設され、スポーツ以外の使い方で稼働率を上げることが求められ、それができないのであれば建てられないというような状況にもあります。今後の検討事項としていただければと思います。

<川村係長>

先ほど西川委員から競輪場の稼働日数についてご意見いただきましたが、本場開催は西川委員がおっしゃる通り60日程度です。

ただ一方で、場外発売も含めると365日ほとんどの日で稼働しているという状況であり、また本場開催をしないときには、包括外部委託の中で様々なイベントを開催し、競輪ファン以外の方にも親しんでいただける競輪場を目指して取り組んでおります。こちらについても、引き続き地域に親しまれる競輪場を目指して、検討していきたく考えております。

<松岡委員長>

ありがとうございます。

他にご意見等よろしいでしょうか。

西川委員から今後の検討課題を挙げていただきましたが、中長期的に競輪事業を実施するということを含めた「令和9年度以降の競輪事業の方向性（案）」を当委員会の提言として、まとめさせていただければと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

<石川委員・石黒委員・上垣委員・西川委員>

賛成です。

<松岡委員長>

ありがとうございます。

それでは、提言としてまとめていただければと思います。課題の項目については、先ほどのご意見を踏まえ、反映させていただければと思います。

<事務局>

ありがとうございます。

<松岡委員長>

それでは、議題Ⅱ「その他」について、参考資料について事務局よりご説明をお願いいたします。

<間林課長補佐>

参考資料についてご説明いたします。

8ページをご覧ください。「参考資料 SDG sに関する取組」についてです。

前回委員会において、委員からSDG sに関する内容の質疑をいただき、前回の資料の中では、令和6年度取組とSDG sの関連が不明確な点がありましたので、今回参考資料にて補足させていただきます。

なお、当資料については、前回委員会開催後、各委員にご確認いただいておりますが、再度正式な委員会資料として、添付させていただきます。

SDG sの目標設定やHP等に関しては、引き続き検討を進めさせていただければと思います。

9ページをご覧ください。「参考資料 ギャンブル依存症対策等に関する取組」についてです。

前回委員会においてもご説明させていただいております、ギャンブル依存症対策や20歳未満の者による投票防止の取組について、今回参考資料にて補足させていただきます。

資料中段のSNSでの配信、WEB広告の掲載、動画の配信等、前回委員会でご説明できていない部分を含め、多方向からの啓発や対策実施に努めております。今後も引き続き、ギャンブル依存症対策等に取り組んでまいりたいと考えております。

以上で、参考資料のご説明を終わります。資料のご説明は以上です。

引き続き、ご審議よろしく願いいたします。

<松岡委員長>

これまで当委員会に出てきていたものを整理していただいたという形ですが、ただいま事務局からご説明のあった内容について、ご質問、ご意見はありませんか。

ないようでしたら、その他に何か奈良競輪や当委員会に関する事で、ご質問、ご意見等

はありませんでしょうか。

<石黒委員>

先ほど、資料7ページの方向性(案)に基づきまして、今後の方向性を決定しましたが、そこに記載されている課題、委員長からご指摘のありました収支見通しの継続的な検討に関するご意見、西川委員からご指摘のありました多目的な活用の検討に関する問題意識、その他色々な課題が多くあると思いますので、委員会として報告書等を取りまとめるということも検討したらいかがかと思います。

<松岡委員長>

ありがとうございます。

今後の方向性を示すというところで、ある程度この委員会が役割終えつつあるということは、私も委員の皆様も恐らく認識をされていると思いますが、石黒委員からこの委員会の報告書をまとめるというご提案がありました、事務局としてはいかがでしょうか。

<間林課長補佐>

石黒委員からご意見ありました報告書をまとめる件について、今後どのような形でまとめるかを委員の皆様とご相談させていただきながら進めて参りたいと考えております。

<松岡委員長>

タイミングとしては良いということで理解してよろしいでしょうか。

<間林課長補佐>

はい。今お話いただいたところですので来年度になるかと思いますが、ご相談させていただきながら進めさせていただきたいと思います。

<松岡委員長>

お願いいたします。その他よろしいでしょうか。

<石川委員>

先ほど石黒委員からお話いただいたことと同じような意見になりますが、結論として競輪事業を継続するという事は理解しつつ、課題は残っております。今後、先を見据えた動きも大事ですが、継続的に安定的な経営は必要不可欠となりますので、老朽化対策も喫緊の課題として、そのあたりの検討状況を今後お示しいただければ、良い議論に繋がるのではないかと考えております。

<間林課長補佐>

ありがとうございます。

老朽化対策については、検討させていただいた上で、また委員の皆様にご意見いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

<松岡委員長>

ご指摘の内容は、7ページの課題というところにも含まれますが、このそれぞれの課題にどのように対応していくかは示すべきだと思います。特に老朽化対策というのは、喫緊の課題かと思っておりますので、この対応について、まとめてご提案いただければと思います。

<間林課長補佐>

わかりました。事務局でどのように老朽化対策をしていくのか検討し、また委員の皆様にご意見いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

<西川委員>

これまでの委員の皆様のご意見にもありましたように、競輪事業は県営事業なので、今後も引き続き安定した経営を行っていく必要があると考えております。当委員会については、奈良県営競輪場の競輪事業の存廃を判断するために元々設置されたと考えておりますが、今後も当委員会の後継となるような委員会を設置して、経営内容や経営状況について確認や議論をしていく必要があるのではないかと考えております。

<松岡委員長>

ありがとうございます。こちらに関しても大切なご意見と思っておりますので、ぜひご検討いただければと思います。当委員会がそろそろ役割が終えつつあるというところで、後継の委員会についても検討が必要であると私も思います。

<間林課長補佐>

ありがとうございます。

こちらについても、事務局で検討させていただき、委員の皆様にお示しさせていただいたく思いますので、よろしくお願いいたします。

<松岡委員長>

ありがとうございます。その他、皆様よろしいでしょうか。

本題よりその他でいろいろご意見いただいたのですが、次回の委員会はいつ頃となる予定でしょうか。

<吉村課長>

本日いただきましたご意見を庁内で調整し、今年度の決算状況等も含めてご報告させていただきたいと考えておりますので、現時点では来年の夏頃に開催できればと考えております。

<松岡委員長>

今回の委員会では、今年度の報告をお示しいただくのと併せて、先ほど委員の皆様からご意見をいただいた、委員会の報告書の案となるようなものを事務局でご準備いただき、間に合えばご提示いただければと思います。

また、7ページの課題における特に施設の老朽化対策について、課題に対する方針案のようなものもご提示いただければと思います。また、タイミングとしては、当委員会が役割を終えていきますので、後継の委員会の立ち上げや役割について、経営状況等の確認をするような委員会となるよう、事務局でご検討いただき、次回委員会にてお示しいただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

<吉村課長>

委員長がおっしゃっていただきました資料を作成いたしまして、また委員の皆様にご意見を頂戴したいと考えております。

<松岡委員長>

資料作成にあたっては、今日ご意見をいただいた委員の皆様にも、情報収集や意見交換を次回開催までにしていただけると良いかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、全体通してここまで色々なご意見をいただきましたが、本日提言をまとめさせていただいたことと、色々な課題が示されたことを踏まえて、また次回に議論するということで、全ての議事を終了したいと思います。

それでは進行を事務局よりお願いいたします。

<吉村課長>

松岡委員長ありがとうございました。

それでは最後に部長の森本より閉会のご挨拶をさせていただきます。

<森本部長>

終始、熱心にご議論いただきまして本当にありがとうございました。

賜ったご意見につきまして、令和9年度以降も引き続き競輪事業を継続していくべきというご意見を踏まえて進めるとともに、その他いただいたご意見を反映させていきたいと考えております。また、公営競技になりますので、県財政への影響等にも留意しながら、し

っかりと検討を進めて参りたいと考えております。

本日は公私ともに大変お忙しい中、集まってお話しいただきまして、貴重なご意見を賜りました。今後も引き続き、忌憚ないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

<吉村課長>

それでは以上をもちまして、第25回奈良県営経営あり方検討委員会を終了とさせていただきます。

本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

(12:05終了)